

～チフスの流行 - 奉仕 - 生死の体験 - 新しい道～

1859～1860 年、イタリアはオーストリアからの<sup>どくりつせんそう</sup>独立戦争による<sup>どうらんき</sup>動乱期でした。そして、<sup>せんそう</sup>戦争は、  
人々の生活に<sup>せいかつ</sup>飢えと<sup>かんせんしょう</sup>感染症をもたらし、多くの<sup>ぎせいしゃ</sup>犠牲者が出ました。モルネーゼでも、チフスが  
<sup>りゅうこう</sup>流行しました。マインのおじの<sup>かぞく</sup>家族も<sup>ぜんいん</sup>全員これに<sup>かんせん</sup>感染し、<sup>だれ</sup>誰か<sup>かんびょう</sup>看病してくれる人が<sup>ひつよう</sup>必要になり  
ました。ペスタリーノ<sup>しんぷさま</sup>神父様は、この<sup>ほうし</sup>奉仕をマインに<sup>たの</sup>頼みました。

マインは<sup>さい</sup>23歳。彼女は<sup>だいかぞく</sup>大家族の<sup>しごと</sup>長女であり、父の<sup>ささ</sup>仕事の<sup>ささ</sup>支えでもありました。それに、チフス  
に<sup>かんせん</sup>感染する<sup>きけんせい</sup>危険性もありました。両<sup>りょうしん</sup>親は、マインの<sup>こと</sup>事を<sup>しんぱい</sup>心配し、<sup>はんたい</sup>反対しました。マインも<sup>ふあん</sup>不安  
と<sup>きょうふ</sup>恐怖の中、<sup>かつとう</sup>葛藤します… しかし、彼女は答えました。

「もし、<sup>のぞ</sup>神父様がそれをお<sup>まい</sup>望みになるのであれば、私は参ります！」



マインは、病人たちに適切で丁寧な看病を行ったので、  
短期間のうちに病気は回復し、平常の生活に戻ることがで  
きました。しかし、今度は、マインが高熱で苦しみます。悪性  
のチフスに罹り、生死をさまよいます。そして、病気になっ  
て52日目の10月7日、ロザリオの聖母の祝日から、少し  
ずつ回復していきました。ただ、以前のようにブドウ畑で  
元気に働く力は残っていませんでした。重い荷物も持てず、  
体力も失われていました。

マインは、神様に祈りながら、問いかけます。

「神様、私はこれからの人生をどの  
ように生きればよいのでしょうか？  
教えてください。

私に何をお望みですか？」



# しんぱい 「心配しないで！」

かみさま      とも      あゆ  
神様は、いつも共に歩んでくださっています！



CG CONVERTER  
TRATRIX.COM

こんなん      とき      かみさま      お  
困難な時にこそ、まなざしを神様に向けてみましょう。

ぜんしん      ちから      めぐ      あた  
前進する力、恵みを与えてくださいます！